
ポケモン&プリキュア 楽しいお正月ゲーム

ヤストシ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケモン&プリキユア 楽しいお正月ゲーム

【Nコード】

N1684BA

【作者名】

ヤストシ

【あらすじ】

お正月、三が日が過ぎたある日、作者がアニメポケとプリキユアを呼び出してゲームを行います。そのゲームは、なんと日テレで放送していた某クイズ番組の今でも人気の根強いあのゲームである。

(前書き)

夢のコラボが今実現します。

作者に突然の思いつきで呼び出されたガールズフレンズ。

ヒカリ「んもう、一体どういうつもりよ」

ハルカ「しかも、お正月そうそうでいきなり集まれだなんて、急過ぎかも」

カスミ「しかも、あたし達の知らない人たちまでいるし」

マリア「あの人達、一体誰なのかしら？」

アイリス「ていうか、あの派手なコスプレを着るなんて」

ベル「わたし達のより変わってるわね」

ガールズフレンズの面々が見た者達とは・・・

ブロツサム「夢原さん、何を考えているんでしょう」

ビート「連載から1ヶ月しか経っていないのに・・・」

パッション「突然すぎるのもいいところね」

サンシャイン「まったくです」

ホワイト「ところで、先ほどから気になっていたんですけど」

マリリン「あの人達誰なの？」

そこにいたのは、『プリキュアオールスターズ プリキュアの世界に大魔王クツパ降臨』のプリキュアメンバーの一部であった。そんな彼女たちも、初対面のガールズフレンズの面々に気づいた。そして、お互いに近づいていく。

マリア「初めまして、ポケモンコーディネーターのマリアです」

ハルカ「わたしは、ハルカ。トップコーディネーターを目指して、旅をしているの」

ヒカリ「あたしは、ヒカリです」

カスミ「あたしはカスミ。水ポケモンマスターを目指して、ハナダシティというところでジムリーダーをしているわ」

アイリス「アタシはアイリス。ドラゴンポケモンマスターを目指して旅をしているわ」

ベル「最後に、わたしはベル。よろしくね。それで、あなたたちの名前は？」

ポケモン組がそれぞれの自己紹介を終えると、ベルが名前を聞いてきた。

ドリーム「私は、キュアドリームこと夢原のぞみです」

ブロッサム「キュアブロッサムこと花咲つばみです」

ホワイト「キュアホワイトこと雪城 ほのかです」

マリン「キュアマリンこと来海えりかです」

サンシャイン「キュアサンシャインこと明堂院いつきです」

ビート「キュアビートこと黒川エレンです。好きな色は・・・」

ホワイト「ビート、名前だけでいいわよ」

キュアホワイトがキュアビートにそう言う。

パッション「私、キュアパッションこと東せつなよ。よろしく」

ブライト「キュアブライトこと霧生満」

それぞれ自己紹介の間にお互いに知らない用語が出てきたので、そのことについて教えあった。さらに年齢も大して変わらないので、タメ口でもOKということになった。

カスミ「ということは、わたしたちは別世界同士の人間ってことになるわね」

ハルカ「しかも、プリキュアなんて・・・」

マリア「こっちでは、アニメの世界かと思っていたけど、そっちの世界では実在しているなんて」

ハルカとマリアがそう言う。

ドリーム「そういえば、さっきから思っていたんだけどヒカリってビートと声がよく似ているわね」

ブライト「いわれ違って見ればそうだね」

キュアドリームとキュアブライトがそう言う。ちなみに、キュアビートとヒカリは、どちらも豊口めぐみさんが務めているキャラです。

ヒカリ「それより、キュアマリンって背がちっちゃいのね」

ヒカリがキュアマリンには、禁句の背に関することを言う。

マリン「小さいと言わないですよ！」

ヒカリ「だって、本当のことだし、はつきり言って小学生に見える」
マリン「誰が小学生よ！小学生は、アコだけで・・・」

ゴーン

キュアマリンの頭にどこからか飛んできたドドリーが後頭部に命中した。

ブロッサム「・・・学習しませんね、えりか」

サンシャイン「えりからしいけどね」

マリン「 気絶

ハルカ「なんなの今は！」

ホワイト「気にしなくていいですよハルカ」

突然の出来事に驚きを隠せないハルカだがホワイトがハルカにそう言う。

ブライト「ところであなた達は、何故ここに連れてこられたか知ってる？」

キュアブライトは、アニメ組が自分たちがここに連れてこられた理由を知っているかどうか確かめてみた。

ベル「残念ながら、わたし達も知らないの」

ブライト「そう」

パッション「何を考えているのかしらこの作者は？」

キュアパッションがそう言う。

アイリス「仕方ないよ、この作者。子供だし、アホだから」

作者の悪口を含んだ会話をしているとそこへ、

???「おお、集まったか」

彼女達を呼び出した張本人、作者・ヤストシである。

ヒカリ「おお、あつまったか」じゃないわよ」

マリア「遅いわよ作者」

ヒカリとマリアがそう言う。

ヤストシ「まあ、そんなに興奮するな。それより、プリキュア達は、初めましてかな？俺は、ポケモンの小説全般を担当してユーザーの

ヤストシだ。ちなみに、プリキュアの世界を担当している夢原光一は、俺の分身だ。よろしく」

ヤストシがそう自己紹介をする。

ビート「こちらこそ、よろしくお願いします」

ドリーム「ところで、私たちを呼び出して何をする気なの？」

キュアドリームがヤストシに聞く。

ヤストシ「お正月でしょう。みんなで、楽しいゲームを行いたいと思います」

ベル「ゲーム？」

マリ「ゲームって何をするのよ」

いつの間にか復活していたキュアマリンがヤストシにそう言う。

ヤストシ「ゲームは、マジカルバナナだ」

カスミ「え！マジカル頭脳パワーで人気だったあのゲーム!？」

ヤストシ「そうさ。そして、最後までに残った人には、俺からの素敵なお年玉をプレゼントしよう」

ヤストシがそう言うときみんな喜んだ。

ヤストシ「それじゃあ、サトシ、ケンタを加えて行こうか」

ヤストシがそう言うといつの間にかサトシとケンタを加えてマジカルバナナが始まった。ちなみに回答順は、以下の通り。

・ドリーム カスミ ブロッサム ハルカ ホワイト ヒカリ マ
リン アイリス ブライト マリア パッション ベル サンシャ
イン ケンタ ビート サトシ

タタタタタン リズム

ヤストシ「マジカル、お正月」

ドリーム「お正月といったらお年玉」

カスミ「お年玉といったら子供」

ブロッサム「子供といったら南野奏太」

ハルカ「南野奏太といったら南野奏」

ホワイト「南野奏といたらキュアリズム」
ヒカリ「キュアリズムといたらプリキュア」
マリリン「プリキュアといたらかわいい」
アイリス「かわいいといたら萌え系」
ブライト「萌え系といたらメイド喫茶」
マリア「メイド喫茶といたら秋葉原」
パッション「秋葉原といたらオタク」
ベル「オタクといたら・・・」
ブーブー（連想できなかったのでアウト！）
ヤストシ「連想が出来ませんでしたので残念でした」
ベル「わからないよ」

ベル脱落、残り15名。

ヤストシ「パッションから」
タタタタタン
パッション「秋葉原といたらオタク」
サンシャイン「オタクといたら鉄道」
ケンタ「鉄道といたらJR東日本」
ビート「JR東日本といたらE231系」
サトシ「E231系といたら・・・」
ブーブー（用語だからアウト！）
ヤストシ「ビート、ビート。E231系って鉄道関係者と鉄道オタクしか知らんぞ」
ビート「でも、ヤストシさんは、知っているじゃないですか」
ヤストシ「確かに、鉄オタの俺は、知っているが世間一般が車両名なんか知っているわけないだろう」
カスミ「それにしてもよく車両名を答えられたわねビート」
ビート「音吉さんの本で知ったの」
ヤストシ「音吉さん。一体あなたは、どんな本を読んでいるんです

か！」

ヤストシがそうツツコム。

キュアビート脱落、残り14名。

ヤストシ「ケンタから」

タタタタン

ケンタ「鉄道といたらJR東日本」

サトシ「JR東日本といたら踊り子号」

ドリーム「踊り子号といたら15両編成」

カスミ「15両編成といたら長い」

ブロッサム「長いといたらお化粧」

ハルカ「お化粧といたら女性」

ホワイト「女性といたらモデル」

ヒカリ「モデルといたらキュアベリー」

マリ「キュアベリーといたら完璧」

アイリス「完璧といたらパーフェクト」

ブライト「パーフェクトといたら・・・」

ブーブー（パーフェクトも完璧も同じなのでアウト！）

ヤストシ「すいませんすいません。アイリス、完璧とパーフェクト

は、同じですよ」

アイリス「同じなの！」

ブライト「当たり前だろう！」

ヤストシ「アハハハ」

アイリスの言葉にキュアブライトがツツコミにヤストシは、笑ってしまふ。

アイリス脱落、残り13名。

ヤストシ「マリから」

タタタタタン

マリン「キュアベリーといたら完璧」

ブライト「完璧といたらテスト」

マリア「テストといたら学校」

パッション「学校といたら勉強」

サンシャイン「勉強といたら徹夜」

ケンタ「徹夜といたらマージャン」

サトシ「マージャンといたらつもる」

ドリーム「つもるといたら雪」

カスミ「雪といたらスキー」

ブロッサム「スキーといたら大好き！」

ハルカ「大好きといたら・・・」

ブーブー（ダジャレだからアウト！）

ヤストシ「おいおい、ブロッサム。ダジャレは、ダメだぞ」

ブロッサム「ダジャレは、ダメですか？」

ヤストシ「ダメだよ」

アイリス「第一、連想していないし」

アイリスがそう言う。

ブロッサム脱落、残り12名。

ヤストシ「カスミから」

タタタタタン

カスミ「雪といたらスキー」

ハルカ「スキーといたら滑る」

ホワイト「滑るといたら受験」

ヒカリ「受験といたら落ちる」

マリン「落ちるといたらバンジージャンプ」

ブライト「バンジージャンプといたら絶叫」

マリア「絶叫いたらお化け屋敷」

パッション「お化け屋敷といたら妖怪」

サンシャイン「妖怪といたら怖い」

ケンタ「怖いといたらミルキイローズ」

サトシ「え！」

ブーブー（本人の思い込みなのでアウト！）

ヤストシ「ケンタケンタ。それは思い込みだぞ」

ケンタ「だって、怖いじゃないですか」

ヤストシ「いやいや」

ドリーム「それ、本人の前で言ったら殺されるわよ」

ヤストシ「アハハハハハ」

ケンタ脱落、残り11名

ヤストシ「サンシャインから」

タタタタタン

サンシャイン「妖怪といたら怖い」

サトシ「怖いといたら断崖絶壁」

ドリーム「断崖絶壁といたら山」

カスミ「山といたらハイキング」

ハルカ「ハイキングといたらお弁当」

ホワイト「お弁当といたら食べる」

ヒカリ「食べると思ったらたくさん」

マリ「たくさん!？」

ブーブー（本人の思い込みなのでアウト！）

ヤストシ「あのね、ヒカリ。少ししか食べない人だっているよ」

ヒカリ「信じきれない」

ヒカリ脱落、残り10名

ヤストシ「ホワイトのお弁当といたら食べるから」

タタタタタン

ホワイト「お弁当といたら食べる」

マリ「食べると思ったら箸」

ブライト「橋といたら渡る」

マリア「渡るといたら船」

パッション「船といたらスクリュー」

サンシャイン「スクリューといたらモーターボート」

サトシ「モーターボートといたら進む」

ドリーム「進むといたら車」

カスミ「車といたら速い」

ハルカ「速いと思ったら新幹線」

ホワイト「新幹線といたらのぞみ」

マリ「のぞみといたらキュアドリーム」

ブライト「キュアドリームといたらお人好し」

マリア「お人好しといたら・・・」

ブー「（連想できなかったためアウト！）」

ヤストシ「残念でした」

アイリス「それより、プリキュアチームがかなり残っているわね」

ビート「本当だわ」

ベル「カスミちゃん、ハルカちゃん、サトシ君。頑張ってる」

マリア脱落、残り9名。

ヤストシ「ブライトから」

タタタタタタタン

ブライト「キュアドリームといたらお人好し」

パッション「お人好しといたらキュアピーチ」

サンシャイン「キュアピーチといたらドーナツ」

サトシ「ドーナツといたら丸い」

ドリーム「丸いと思ったらボール」

カスミ「ボールといたら野球」

ハルカ「野球といたらメジャー」

ホワイト「メジャーといたらマリナーズ」

マリン「マリナーズといたらイチロー」

ブライト「イチローといたら天才」

パッション「天才といたらキュアブラック？」

サンシャイン「え！」

ブーブー（見当違いなのでアウト！）

パッション「間違え間違えた」

ヤストシ「パッション」

パッション「間違えました」

ホワイト「いくら、間違えたからと言ってブラックはないと思うよ」

サンシャイン「そうそう」

キュアパッション脱落、残り8名

ヤストシ「ブライトから」

タタタタタタタタン

ブライト「イチローといたら天才」

サンシャイン「天才といたらキュアホワイト」

サトシ「キュアホワイトといたら・・・」

ブーブー（連想できなかったのでアウト！）

ヤストシ「残念でした」

サトシ脱落、残り7名。

ヤストシ「サンシャインから」

タタタタタタタン

サンシャイン「天才といたらキュアホワイト」

ドリーム「キュアホワイトといたら科学」

カスミ「科学といったら実験」
ハルカ「実験といったらネズミ」
マリ「ネズミといったらピカチュウ」
ブライ「ピカチュウといったら黄色」
サンシャイン「黄色といったら私？」
ブー（私じゃあ分からないのでアウト！）
ヤスト「サンシャイン、悪いけどこのゲームで私とか僕とか俺と
言ったものは、ダメなの」
サンシャイン「ダメですか！？」
ヤスト「当たり前だろう。例え、自分でも名前と言わないと」

キュアサンシャイン脱落、残り6名。

ヤスト「ブライから」
タタタタタタタン
ブライ「ピカチュウといったら黄色」
ドリーム「黄色といったらキュアサンシャイン」
カスミ「キュアサンシャインといったらひまわり」
ハルカ「ひまわりといったら夏」
ホワイト「夏といったらお祭り」
マリ「お祭りといったら浴衣」
ブライ「浴衣といったら着物」
ドリーム「着物といったら西陣織」 ファインプレー
カスミ「西陣織といったら京都」
ハルカ「京都といったら舞妓さん」
ホワイト「舞妓さんといったら美人」
マリ「美人といったらキュアマリン」
ブー（本人の思い込みなのでアウト！）
マリ「ちよっと、どうしてダメなのよ。どこからどう見ても美人
でしょう！！！！！！」

キュアマリンがそう激怒するとヤストシがやって来てこう言った。
ヤストシ「マリン。はつきり言うけど、お前のどこが美人なんだ！
こんなに背が小さいくせに生意気ですぐにキレルやつが美人って言
う資格なんてない！」

マリン「なんですって！！！！！」

ブロッサム「落ち着いてくださいマリン」

キュアマリンがヤストシを殴ろうとするがキュアブロッサムがそう
言う。

ホワイト「それにしても、ドリーム。よく西陣織なんて知っていま
したね」

キュアホワイトがそう言う。

ドリーム「この間、みんなと一緒に京都へ行った時にかれんとこま
ちとりんちゃん、くるみに耳が痛いほど聞かされて。着物でフツと
西陣織が出て来たの。」

パッション「4人に感謝しないとねドリーム」

キュアマリン脱落、残り5人。

ヒカリ「結構絞られたわね」

ビート「見て、ドリームが残っているわ」

ブライト「本当だ。勉強が出来ないドリームが残っている」

ドリーム「それ、どういう意味よ！」

キュアドリームがそう言う。

ヤストシ「それじゃあ、ホワイトから」

タタタタタタタタタン

ホワイト「舞妓さんといったら美人」

ブライト「美人といったら細い」

ドリーム「細いといったら針」

カスミ「針といったら糸」

ハルカ「糸といったら白い」

ブーブー（本人の思い込みなのでアウト！）
ヤストシ「ハルカ。糸は、白だけじゃないからね」

ハルカ脱落、残り4人。

ヤストシ「アニポケ組は、カスミしかいません」

ハルカ「頑張つてカスミ！」

ベル「絶対に勝ち残つて！」

ハルカとベルがそう言う。

ヤストシ「それじゃあ、カスミから」

タタタタタタタン

カスミ「針といたら糸」

ホワイト「糸といたら編み物」

ブライト「編み物といたら夜なべ」

ドリーム「夜なべといたら遅い」

カスミ「遅いといたら眠い」

ホワイト「眠いといたらまくら」

ブライト「まくらといたら頭」

ドリーム「頭といたら髪の毛」

カスミ「髪の毛といたら美容院」

ホワイト「美容院といたらパーマー」

ブライト「パーマーといたら液」

ドリーム「駅といたら電車」 2度目のファインプレー

カスミ「電車といたら走る」

ホワイト「走るといたらマラソン」

ブライト「マラソンといたらたすき」

ブーブー（マラソンはたすきしないのでアウト！）

ヤストシ「ブライトブライト。マラソンじゃなくて駅伝だよたすき
するのは」

ブライト「しまった」

キュアブライト脱落、残り3名

ヤストシ「ホワイトから」

タタタタタタタタン

ホワイト「走るといったらマラソン」

ドリーム「マラソンといったら選手」

カスミ「選手といたら野球」

ブーブー（前にも言ったからアウト！）

ヤストシ「あの、カスミ。さっき、自分が野球って言ったでしょう」

ヤストシがそう言う

カスミ「しまった」

ガツクリするカスミであった。

カスミ脱落、残り2名

ヤストシ「さあ、アニポケ軍団が全滅し、残ったのは、ドリームとホワイトです」

そう言うとキュアドリームが両手を挙げて、ホワイトは笑みを見せる。

マリ「ドリームが最後まで残るなんて・・・」

ブライ「何か悪いものでも食ったのかな？」

ドリーム「そんなことないよ。実力よ実力」

キュアドリームがキュアマリンとキュアブライトにそう言う。

ビート「ホワイト、頑張って！」

パッション「ドリームに負けたら恥だよ」

ホワイト「そんなことはないけど、ドリームには絶対に負けたくないです」

キュアホワイトがそう言うて気合を入れる。

ヤストシ「ドリームから」

タタタタタン

ドリーム「マラソンといったら選手」

ホワイト「選手といったら宣誓」

ドリーム「宣誓といったら発言」

ホワイト「発言といったら授業・・・」

ブーブー（連想とはいえないのでアウト）

ヤストシ「ドリームドリーム。発言と宣誓とは、今か違いすぎるだろう。アクションだけで自分でパツと手を上げるのは」

ドリーム「チエ」

ヤストシ「言うことで、見事マジカルバナナを制したのは、キュアホワイトです」

ホワイト「ヤッター！！！！！！」

喜ぶキュアホワイト。

ヤストシ「優勝したキュアホワイトには、近日あなた主演の短編小説を制作いたします」

ビート「すごいじゃないホワイト」

ホワイト「私、超うれしい」

ヤストシ「と言う訳でキュアホワイト主演の短編小説は近日公開予定？なのでお楽しみに」

ヒカリ「何、今の？マークは！」

ヤストシ「それでは、皆さん。アンコールがありましたらまたプリキュアとポケモンの楽しいゲームを作成します。それでは」

全員「サヨナラ」

(後書き)

どうでしたでしょうか？本当は、3が日以内に書こうと思いましたが間に合いませんでした。もし、人気が出ればまた企画いたします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1684ba/>

ポケモン&プリキュア 楽しいお正月ゲーム

2012年1月4日12時49分発行